

学会 60 周年記念としての『社会福祉学事典』の刊行

『社会福祉学事典』編集委員長

白澤政和(桜美林大学大学院老年学研究科)

日本社会福祉学会は 1954 年 5 月に創立され、今年で 60 周年を迎えました。この 60 周年を記念して、今日まで積み上げてきた社会福祉学の研究成果を集約した事典を刊行することを学会理事会で企画してきました。そして、5 月 25 日に東洋大学で開催されました第 62 回春季大会で、『社会福祉学事典』(丸善出版)としてお披露目をすることができ、60 周年に間に合わすことができました。

日本社会福祉学会は、会員の増加に伴い、社会福祉学の研究領域は、それぞれの深まりに加えて、拡大してまいりました。そのため、本事典では、社会福祉学の研究領域を、基礎的な研究として、原理・思想、歴史、方法 1 (政策と運営)、方法 2 (ソーシャルワーク) の 4 領域を横軸として位置づけました。縦軸として、イギリスやアメリカでソーシャルサービスやヒューマンサービスと呼ばれる領域を念頭に置いて、所得、保健医療、雇用、教育、住居、権利擁護、パーソナル・ソーシャルサービスによる支援の 7 領域を設定しました。さらに、上記の研究を支えるものとして、研究方法、教育、マンパワー・人材の 3 つの研究領域を設定しました。以上の 14 の領域設定で、全会員の研究領域をカバーできたかのいささかの不安は残っているが、現状の社会福祉学会会員の研究領域のフレームワークを作ることに寄与出来たのではないかと考えています。このように設定した研究領域をもとにして、総計 321 項目の研究テーマを設定しましたが、これらの項目でもって、社会福祉学の一応の見取り図を作り上げたこととなります。

なお、日本社会福祉学会の 60 周年を記念しての刊行であるため、すべての項目を本学会会員に限定して執筆していただきました。同時に、できる限り多くの会員が執筆いただくために、1 会員 2 項目以内 (できれば 1 項目) を原則にしました。結果的に、248 名の会員の方にご執筆を頂くことができました。

ここに改めて、執筆頂きました会員の皆さん、さらには全体の枠組みを作ってくださいました編集幹事や編集委員の皆さんに、心から感謝申し上げます。同時に、他の会員の皆さんにも多数ご執筆頂くべきところでしたが、紙面の都合で叶わなかったことをお許し願いたいと存じます。

日本は少子高齢化が急速に進行しており、一方で人々の生活課題は複雑化・多様化・深刻化しており、課題の範囲も広がりを見せています。こうした生活課題の解決に向けて一般社団法人日本社会福祉学会は研究の砦としてその重要性が益々高まってきており、その

期待に応じていくことが求められています。その意味では、これに応えるべき、社会福祉学の研究成果を継承・発展していくことが今後の使命であります。その中で、『社会福祉学事典』が学会創設以降 60 年間の社会福祉学研究のマイルストーンになってほしいと願っています。

会員の皆さんには是非ご購入いただき、研究にご活用いただきたいと願っています。また、図書館などに納入していただきますようお願いをいただきたく、お願い申し上げます。